

ZOOMの「ズ」

三 春

年に一度、5月の最終日曜日に四ツ谷の母校で卒業生のための Festival が開かれる。卒業以来一度も訪れたことがないという天邪鬼であればあるほど、青春時代の甘酸っぱい思い出に引き寄せられて、足を運ぶ気になるらしい。

いつもなら、学科やサークルの懇親会、お気楽なガーデンパーティーなどで賑わうのだが、昨年はコロナ禍でキャンパスでの開催を諦め、世界中で活動する卒業生たちを ZOOM でつなげて講演会や交流会を開いたとのこと。これが好評だったので、「今年も ZOOM で」ということになったそうだ。

春もまだ浅いころ、落研 OB 会の幹事からメールが入った。フェスティバルの催事のひとつに入船亭扇治（落研が輩出した噺家の一人）の ZOOM 独演会が予定されているのに、自分はズームの「ズ」も知らないので打合せ会に同席してほしい、というものだ。扇治師匠といえば当ペンクラブが依頼した独演会をコロナ延期したので、私としては大きな借りがある。

同席してみて驚いた。落語会の共催者の代表は私と同じ学科の大先輩で 80 歳を超えてなお TV 番組制作会社のバリバリ現役(!)、世話役のドイツ語学科卒の女性 71 歳も ZOOM 慣れしている。そのうえ、扇治師匠はコロナに高座を奪われた日々を漫然と過ごすことなく、図書館司書の資格を取り、ZOOM の裏技(?)を習得し、ブロガーや YouTuber としての活動も始めたという。ズームの「ズ」も知らない落研あがりや、「ズ」しか知らない私なんぞの出る幕はなさそうだ。

そしていよいよ5月の最終日曜日。扇治師匠自ら演出・編集したその独演会を YouTube で観た（師匠は全くのボランティア、無償で出演してくださった）。演目は古典落語「ねずみ」。寂れはてた旅籠に左甚五郎が泊まるどころから噺は始まる。

ところで、フェスティバルでの落語会は4年前に始まった。初回は大学に隣接する「福田屋」で開かれた。福田屋といえば大物政治家たちが夜な夜な密談した高級料亭として有名だ（その昔、話のタネにと潜り込んだときは和菓子1個と緑茶で4000円も取られた）。

この福田屋を4年前に大学の経営母体であるイエズス会が買い取り、魯山人が愛した備品や調度もそっくり引き継いで「紀尾井亭」と改め、こうした各種イベントに利用している。

クリスチャンでない私でさえ、イエズス会の経営力と影響力には舌を巻く。ザビエルが初めて日本にキリスト教を伝えてからそろそろ500年、歴史の重みだろうか。